

「日経TEST公式テキスト&問題集 2017-18年版」発売のお知らせ

2017年3月23日

全国から桜の開花の便りが届き始め、まもなく新しい年度を迎えます。日経TESTに継続してチャレンジいただいている皆様にはお待ちかねの「公式テキスト&問題集 2017-18年版」が、日本経済新聞出版社から発売されました。また、春の全国一斉試験（6月11日実施）の申し込み受け付けも開始しており、5月10日（水）が締切日となります。

入門解説を追加、「経済の流れをつかむコツ」を伝授

今回発売した書籍は、昨年版までの「練習問題集」から「テキスト&問題集」に書名を変更しました。各章に「入門解説」または「例題解説」を設け、テキスト要素を充実したためです。

全体の構成は、昨年版と同様、日経TESTの「5つの評価軸」である、①基礎知識、②実践知識、③視野の広さ、④知識を知恵にする力、⑤知恵を活用する力、に従った5章です。知識を試す第1～3章には「入門解説」、考える力を試す第4～5章には「例題解説」のページを冒頭に設けたのが大きな違いです。20問ずつの練習問題、ステップアップ解説、息継ぎのコラムと続くのは昨年同様で、全体248ページと昨年比約50ページ、ボリュームも増えました。

テキスト部分の狙いですが、日経TESTはいわゆる検定試験などと異なり、テキストに書いてある内容をマスターすれば足りるものではありません。また、最近のニュースなど「生きた経済」を出題対象にしますが、日々の日本経済新聞の記事をくまなくチェックし、知識として詰め込むことを求めるものでもありません。

経済の流れをつかみ、ビジネスとして考える力を測定するテストなので、経済知カスコアを向上するには、「普段から経済やビジネスに関する知識を増やしたり、考えたりする習慣を付けておく」ことをお勧めしてきました。

とはいえ、ビジネス経験をそれなりに積んだ皆様でも、自分の仕事に関連する分野以外は何が重要なのかをつかむのは難しく、習慣づけがなかなか出来なかったり、不十分と感じたりする方は多いと思います。また、若手社員、新入社員、就職活動を始める学生の皆様であれば、意欲はあってもまずどこから手をつけるか、途方に暮れることもあるかと思います。

そうした皆様に「経済の流れをつかむ」コツを習得していただくのが、今回追加したテキスト部分の狙いです。まず「基礎知識」の部分の入門解説では、日本経済・世界経済などが主語の「マクロニュース」を理解するのに欠かせない国内総生産（GDP）や円高・円安など為替、金利、株価などの分野と、個別企業が主語の「ミクロニュース」を理解するのに欠かせない企業の業績や会社の成り立ちに関する分野を、一体感を持って理解できるように、解説しました。

この解説は、日本経済新聞の日々の紙面に掲載される経済ニュースを的確に理解し流れに乗るための、いわば「前提知識」といえる部分に重点を置いています。学生や新社会人の皆様が日経新聞を読み始めても、紙面に登場する用語などが難しく、「挫折」してしまいがちとよくいわれます。経済用語辞典などで意味を確認しても、生きた経済を扱う記事の文脈とうまくつながらないことも多いと思います。

本書ではそのような場面を想定して、新聞記事では省略されがちな「基本の基本」から解説したので、日々の経済情報を吸収するうえでも役に立つと思います。景気などマクロ経済の流れはある程度、理解していても、個別企業の増益・減益のニュースなどが苦手な方もいると思います。マイクロニュースの分野でも同様の工夫をしています。

ステップアップ解説、金融政策の「なぜ」にも答える

日銀のマイナス金利政策、米連邦準備理事会（FRB）の政策金利引き上げの動きなど、最近の金融政策は最もわかりにくい分野だと思います。日本では1990年代のバブル経済崩壊以降、米国や欧州でも2008年のリーマン・ショック以降あたりから、経済が「異常」な状態に陥り、「非伝統的」などと呼ばれる金融政策が長らく続いてきました。

最近の政策は、経済が「正常」なときの「伝統的」な金融政策とは何かから知っておくと、理解しやすくなります。第1章のステップアップ解説では、歴史的な経緯も数ページで振り返りつつ、説明しました。FRBのイエレン議長は2017年3月15日、15年12月から数えて3度目の「利上げ」に踏み切りました。日銀の黒田総裁はマイナス金利を含む「金融緩和」を継続するとしています。このように日米の金融政策が逆の方向に動いている構図も理解しやすくなります。

米国経済などのポイントを解説、国内主要業界の見方も

「実践知識」の範囲も幅広いのですが、経営環境としては世界経済の大きな流れ、企業戦略としては国内の主要な業界や大企業の動きをつかんでおくことがポイントです。本書第2章の入門解説では、前者については米国、中国、欧州、後者については自動車、電機、銀行と3分野ずつに絞って取り上げました。

米国ではトランプ米大統領の政策、欧州では英国の欧州連合（EU）離脱の動き、中国は「中速成長」への減速の成否が注目点です。これらの新しい動きは、それぞれの国・地域の経済の特徴や過去の流れをざっとつかんだうえで理解すると、構図がよく見えてきます。

国内にはさまざまな業界があります。その中で自動車業界のニュースが大きく取り上げられるのは、日本最大の企業であり、世界の自動車業界のトップを争うトヨタ自動車など大企業が多いからだけではなく、関連する産業の裾野が広く、日本経済に占める割合が大きいためです。

電機業界はかつて自動車と並んで日本経済を支える2本柱といわれましたが、中国・韓国メーカーの追い上げなどで事業変革を迫られた、象徴的な分野です。2016年にはシャープが台湾の鴻

海（ホンハイ）精密工業の傘下に入り、東芝は柱となるはずだった原子力事業で巨額の損失を出し、債務超過に陥ったとみられます。一方で米ゼネラル・エレクトリック（GE）などがとった「製造業のサービス化」路線に舵を切った日立製作所などの動きがあります。

銀行業界は2016年のマイナス金利政策がメガバンク、地方銀行それぞれの経営に大きく響いています。メガバンクでは国際部門での収益力がますます重要になっています。地方銀行は急速な人口減少の中、生き残りのための経営統合・合併が一段と進みつつあります。そして、銀行業全体を脅かしているのが、巨額なシステム投資などを必要とせず、スマートフォンを介して金融機能を果たす「フィンテック」です。

このほか、「視野の広さ」を問う第3章の入門解説では、極めてコンパクトですが「政治」をとりあげました。ステップアップ解説では、昨年版に引き続き、「日経MJヒット商品番付」を題材にしたトレンド分析も掲載、硬軟取り混ぜた内容となっています。

日経TEST公式テキスト&問題集 2017-18年版の内容

- ◆ガイダンス～日経TESTとは
- ◆第1章 基礎知識
 - 入門解説 マクロ経済は企業活動の集積、両面から理解する
 - ステップアップ解説 「金融政策」の現状を理解する
 - コラム 「100万戸・500万台・1億トン」
- ◆第2章 実践知識
 - 入門解説 グローバルな経営環境を押さえ、企業戦略の背景を知る
 - ステップアップ解説 ロボット・VRが課題解決に貢献
 - コラム 「世界で一番」の企業
- ◆第3章 視野の広さ
 - 入門解説 なんでも経済、ビジネスの視点から情報を吸収する
 - ステップアップ解説 ヒット商品番付から消費のトレンドを読む
 - コラム 「iPhone」発売から10年の節目
- ◆第4章 知識を知恵にする力
 - 例題解説 情報に付加価値、ビジネスを動かす共通点を見いだす
 - ステップアップ解説 「働き方改革」が焦点になる理由
 - コラム 「旭山動物園」とリオ五輪の400Mリレー
- ◆第5章 知恵を活用する力
 - 例題解説 知識と知恵を動員、原因・結果を推測しビジネスに応用する
 - ステップアップ解説 「乱気流」の中に吹く大きな風を読む
 - コラム 「子どものAI」進歩のインパクト
- ◆まとめ・学習のポイント・キーワード索引

日本経済新聞出版社・248ページ・1620円（税込）<本体価格 1500円>

「考える力」は例題で解説、「働き方改革が必要になる理由」も

「考える力」のパートである第4章、第5章では、それぞれの評価軸での代表的な出題形式に沿った「例題解説」を冒頭に設けました。問題を解く際の思考過程が参考になると思います。

いくつかの事象に共通する要素を探ることが多い「知識を知恵にする力」を磨くには、日本のビジネスが共通して直面する大きな課題は何かについて、日々の仕事で得る直接情報や、新聞などから知る間接情報を通じて、普段から問題意識を持っておくことが大事です。

第4章の例題解説では、運送業の人手不足、2016年にあった日本企業による海外企業のM&A（合併・買収）戦略についてとりあげました。ステップアップ解説では「働き方改革が必要になる理由」をとりあげています。

第5章の例題解説では、マクロのテーマでは世界の金融マーケットでの「リスクオフ・リスクオン」の動き、ミクロのテーマでは5000億円市場へのV字回復が話題になりそうな「アイスクリーム業界」についてとりあげました。テーマとしては一見、かけ離れていますが、同じ評価軸の例題です。このテキスト&問題集では、「マクロのニュースもミクロのニュースも、経済は全てつながっている」ことをたびたび強調しました。

練習問題もマクロ・ミクロ取り混ぜたテーマになっていますので、実際のテストでどのような問題が出題されるかの参考になると思います。なお、練習問題は1つひとつにキーワードを設定し、それぞれの解説を読んで知識や考え方を身に付けてもらうことを狙いにしています。このため、「100問・80分で能力を測定する」という目的の本番のテストに比べると、問題の形式はほぼ同じですが、難易度が高かったり、印象に残るようにひねりが加わったりしています。本書内でもお断りしましたが、「この100問が模擬テスト」という性格ではありません。

「自由貿易」や「保護主義」、歴史的な経緯もコンパクトに

2016～17年は、英国の国民投票での欧州連合（EU）離脱派勝利、トランプ米大統領の勝利、それを受けた米国の環太平洋経済連携協定（TPP）合意からの離脱など「想定外」の事態が相次ぎました。第2次世界大戦後、米国と英国が旗を振り、日本経済が今も世界第3位の経済大国である基礎となっている「自由貿易」が揺らぎ、「保護主義」が台頭しているといわれます。

本書を締めくくる第5章のステップアップ解説では「自由貿易はどうなるか」という項を設けて、こちら「そもそも自由貿易とは」から解説をしています。トランプ政策がこれまでの経済の流れの中でどのように位置づけられるのかが分かります。

トランプ米大統領の経済政策は1980年代のレーガノミクス（レーガン大統領の経済政策）との共通点が多いといわれます。その際は1985年のプラザ合意と呼ばれる世界的な為替レートの調整（当時の円相場は1ドル＝240円台から同150円台まで上昇）も起きました。テレビ番組などでエコノミストや評論家によるこうした解説を耳にしたことがあると思います。

本書ではこうした歴史的な経緯についても、知っておくべき予備知識として、ポイントが頭に入るように解説しています。本書末のキーワード索引も昨年版より大幅に充実、例えば「レーガノミクス」や「プラザ合意」などに関する項目もありますので、ふだん新聞を読む中でこうした言葉が出てきた際にも、参考にしていただければと思います。

A I やロボット、「第4次産業革命」の主役も引き続き重点解説

あらゆるものがネットにつながる「IoT」が脚光を浴び始めた2015年あたりから、「第4次産業革命」とも呼ばれる大きな波が押し寄せているといわれます。こうした大きな変革は、起きている足もとでは意外に分かりにくいものですが、ここ数年の人工知能(AI)の進歩などは、振り返ると20世紀はじめの自動車の登場などと同様、経済を変える、「100年に1度」の大きな変革の波となる可能性があります。

第5章のステップアップ解説ではこうした「大きな風」の読み方を解説したほか、ロボット、ドローン(小型無人機)、VR(仮想現実)を取り上げた第2章のステップアップ解説など、新しい技術の動きや意義についても、昨年版に引き続き、重点的に解説しています。

索引にとりあげたキーワードは約400、登場する企業も約250社あります。いわゆる参考書でなく、読み物としてのストーリー性も意識していますので、最後まで読み通すと、これまでなじみにくかった分野の経済・企業ニュースにも親しみがわくと思います。

※ ※ ※

本書は全国の書店のほか、電子書籍版も「日経ストア」などで購入できます。春の全国一斉試験(6月11日実施)の申し込み締め切りは5月10日(水)です。ビジネスパーソン1人ひとりが経済の大きな変化に対応しながら「働き方」の改革も求められる中で、日経TESTが測り、伸ばすことを目的にしてきた「経済知力」の意義は改めて大きくなっています。

6月の全国一斉試験はスコアアップを目指される方はもちろん、初めて受験を検討される方も、ご自分の経済知力の客観的な評価を知る絶好の機会です。チャレンジを期待申し上げます。

春の全国一斉試験のお申し込みを受け付けています。

◆日経TEST春の全国一斉試験 2017年6月11日(日)

申し込み締め切り：5月10日(水)

実施会場：全国の主要14都市 受験料：5,400円(税込)

企業・団体試験、テストセンター試験は随時、申し込み受け付け中です。

申し込み方法は本サイトのトップページなどをご覧ください。